



Title	文末表現における思考引用「って」の用法とその音調に関する考察：自然会話を事例にして
Author(s)	リスムラティ, リスマ
Citation	日本語・日本文化研究. 2024, 34, p. 69-83
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/101316
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

文末表現における思考引用「って」の用法とその音調に関する考察 —自然会話を事例にして—

リスマ リズムラティ

1. はじめに

日本語における文末表現は、話し手の感情や意図を伝える重要な働きをもつ。特に、思考引用を示す「って」という表現は、自然会話において頻繁に使用され、その用法や音調には多様な意味合いが込められている。本稿で取り扱う思考引用というのは、自分の考えや意見、判断などを指す「と思う」と同様の表現である。ただし、話し言葉の場合は、この思考を表す「と思う」表現は、文末で「って」と省略され、主に話し手の主観性の強い考え・判断・感情などを表すことが多い。従って、本稿では、自然会話を事例に、思考引用の意味をもつ「って」が、その音調と結びついてどのような関係をもつのかについて分析を行う。

文末表現「って」は、守時（1994）をはじめ、三枝（1997）、岩男（2003）によると、一般的に「引用」「伝聞」「強調」の用法をもつと分析されてきた。一方、他者に向かって用いられる話し手の思考や感情を表す「って」に関する分析はあるにはあったが、音調との関係などの不明な点が残されている。本稿では、現代日本語の自然会話における「って」の用法と音調の多様性を明らかにすることで、日本語の思考引用「って」に関する使用法の理解を深めると同時に、「って」に伴うイントネーションも明確にすることを目的とする。

2. 先行研究

2.1. 思考引用「って」について

話し手の個人的な意見、推量・判断を述べる場合に「と思います」（普通形「と思う」）が使われるが、話しことばの場合、「と思う」の省略形「って」がより一般的に使われる。そして、許（1999:85）も、文末の「って」については、「自分の考えを引用して説明する」という用法を持ち、特に話し手である自分の考えを引用して、相手に何か説明をするときに使われると述べている。ここで言う「話し手の考えを引用する」というのは、思考引用の「って」を指している。

2.2. 文末「って」に関する先行研究とその問題点

思考引用の「って」に関する分析に関しては、許（1999）と深尾（2018,2019）がある。許（1999）によると、文末の「って」は「と言っていた」や「と聞いた」、あるいは「というのはどういうことですか」などの引用・伝聞、問い返しを表わすとされてきた。ここで許は、文末の「って」を「第三者の話しを伝える」、「相手に働きかける（問い返しまたは、相手の話に反発する）」及び「自分の考えを引用して説明する」という3つのグループの用法があ

と考えている。第三のグループが、本稿における思考引用に当たる。

深尾(2018)は、日本語コーパスやテレビ番組のデータを用いて、引用助詞「って」で終わる文の機能を分析した。深尾によれば、「って」で終わる文の機能を大きく3つのグループに分け、「新情報を伝える」「会話を管理し拡張する」と「話者の感情や態度を表現する」に分類した。「新情報を伝える」「って」は「他人の話を伝える場合」「自分が以前に話したことを再度伝える場合」と「自分の考えやアイデアを表現する場合」に用いられる。ここで、深尾は「自分の考えやアイデアを表現する場合」で、本稿における思考引用を分析している。

さらに、深尾(2019)は、思考引用について、直接は触れていないが、文末の「って」のイントネーションについて次のように詳しく分析した。深尾(2019)によると、文末で使用する引用助詞「って」は、2つの用法、‘人から聞いた話を伝える文末「って」’と‘話し手の主張を表現する(強調)「って」’という観点で分けた。‘人から聞いた話を伝える’(引用の)「って」は、下降だけではなく、上昇、平坦、下降上昇、上昇下降のイントネーションとされている。そして、‘話し手の主張を表現する’(強調の)「って」には下降、平坦、下降上昇のイントネーションが観察された。また、2つの用法の「って」のイントネーションには次のような違いがあることが明らかになった。‘人から聞いた話を伝える’「って」は前接する語句と「て」との間のポーズの持続時間が長いこと、または、前接する語句の末尾より「て」が高い位置か同じ位置で終わっていた。これに対して、‘話し手の主張を表現する’「って」は1.前接する語句と「って」を含む発話部分のピッチレンジが広い、2.前接する語句と「て」との間のポーズの持続時間が短い、3.「て」自体の持続時間が長いという特徴を持つと述べている。

以上、これらの先行研究を踏まえ、文末の「って」は、形態的・意味的用法や情報源と伝達のし方の分類などという観点から分析されてきたことが分かった。しかしながら、より厳密に見ていくと、特に‘話し手の考えや意見を説明する’用法の「って」に関しては、許が指摘した思考引用「って」に対し、話し手自身の考えを引用し、何か説明を提示するときに使われることには一致するが、終助詞「かな」と終助詞「な」で先行される「って」の用法に関しては詳しく触れられていない。一方、深尾は、‘自分の考えやアイデアを表現する場合’の「って」も同様に、「と思って」を表す「って」の前には「かな」や「なあ」が現れる傾向があるようだと指摘はあるが、それぞれについての分析は行っていない。

なお、許と深尾が指摘した話し手の思考に関して、考え・意見・アイデアといった概念がどのように定義され、その範囲がどのように用いられているかについての詳細な分類は記述されていない。また、それぞれの「って」におけるイントネーションの特徴についても触れられていない。現代の自然な会話において、特に話し手が聞き手に「自分の考え・意見・評価・感情など」を伝える際に使用される「って」の用法が、どのような音調やイントネーションで発音されるかによって、同じ表現でも異なる意味やニュアンスを持ち得るため、理解が難しくなることがある。そこで、本稿では、自然な会話を前提に、それぞれの用法に伴

うイントネーションの特徴を再検討する必要があると考え、思考引用「って」のイントネーションの様態を考察し、意味機能との関係についても検討する。

3. 研究方法

3.1. 資料

本稿は、日常の環境により反映された自然さが豊富なため、『日本語日常会話コーパス (CEJC, 2022.03 版)』を調査資料とし、首都圏出身者の会話を中心に発話データを抽出することにした(2016 年から 2020 年までの収録会話である)。コーパス・データから、家族関係会話をはじめ、友人関係会話、同僚関係会話、仕事関係会話とサービス場面という 5 つの話者間の関係性のカテゴリによる 15～50 分間の合計 58 件の会話が選抜された。会話から収集された思考引用の「って」は 101 の発話データが抽出できた (表 1 参照)。

表 1 資料とする会話の詳細

話者間の関係性	会話数	発話数	場所詳細
1 家族関係	14	22	自宅；親戚の家；配偶者の自宅； 買い物中；飲食店
2 友人関係	25	42	自宅；友人宅；飲食店；ライブハウス；大学
3 同僚関係	6	16	職場；飲食店
4 仕事関係	6	11	職場；飲食店
5 サービス場面	7	10	歯科医院；治療施設；床屋； 美容院；爪磨きレッスン
総数	58 件	101 発話	

3.2. 対象となる発話データ

コーパス・データから抽出した結果、思考引用の「って」には特徴が見られた。それは、先行する終助詞やモダリティにより、「って」の出現では、終助詞「な」＋「って」形式、終助詞「かな」＋「って」形式、モダリティ「だろう」＋「って」形式、名詞「だ」＋「って」形式、と意向形＋「って」という 5 つのパターンに分類できた。また、モダリティ「だろう」＋「って」形式、名詞「だ」＋「って」形式、意向形＋「って」は、数が少ないため、本稿では、対象外とする (表 2 参照)。

表 2 対象となる発話データ

思考引用「って」の分類	例	発話数
1. 終助詞「な」＋「って」	<ul style="list-style-type: none"> 見たことないな<u>って</u> 付かないだろうな<u>って</u> 	50
2. 終助詞「かな」＋「って」	<ul style="list-style-type: none"> ゼミどうしたかな<u>って</u> 	45

	● こんな感じかな <u>って</u>	
3. モダリティ「だろう」＋ 「って」	● もうママがどうなるんだろう <u>って</u> ● 無理だろう <u>って</u>	4
4. 名詞「だ」＋「って」	● うーわ全部児童書だ <u>って</u>	1
5. 意向形＋「って」	● 下がなかったんで下を買おう(L <u>って</u>)	1
発話データの総数		101 発話

3.3. 文末イントネーションの分類基準

音声データを分析するためのソフトウェア Praat に基づくピッチ曲線の観察及び聴覚印象により、思考引用「って」のイントネーションパターンを分類した。今回の調査では、思考引用「って」の 101 発話の音声データを Praat で測定し、ピッチが分析可能である 56 発話を対象にした。

4. 結果と考察

本節では、まず、思考引用「って」の意味用法、思考引用「って」の音調の特徴、続いて、思考引用「って」の意味用法とそれらの持つ音調との関係性について記述する。

4.1. 思考引用「って」の意味用法について

コーパス・データを分析した結果、自然会話に見られる思考引用「って」は、先行する終助詞により、形式の特徴が分類できた。3.2 で記述した通り、思考引用「って」は、終助詞「な」と「かな」と共に出現することが多かった。以降は、終助詞「な」＋「って」の形式を「なッテ」と表記し、終助詞「かな」＋「って」の形式を「かなッテ」と表記する。次に、その「って」の分類を詳しく見ておきたい。

4.1.1. 終助詞「なッテ」の形式

終助詞「な」が先行する思考引用「って」の出現については、総数 50 発話がある。抽出データから、「なッテ」は、終助詞「な」の用法を反映し、主に話し手の感情表出を示すために用いられるため、終助詞「な」の意味用法が適用されると考えられる。分析を行う前に、まずは終助詞「な」についての伊豆原（1996）と森山（1998）の研究を見ておきたい。伊豆原（1996）は、独り言的用法と対話的用法に区別した。独り言的用法の「な」は、主に詠嘆と回想の用法を表す一方で、対話的用法の「な」は、詠嘆・回想・やわらげ・確認・同意の意味があるとされている。森山（1998:124-125）が指摘した終助詞「な」には、聞き手めあての「な」、聞き手不めあての「な」と中間型の「な」と 3 つの用法に分類した。聞き手めあての「な」には、話し手の主張や判断などを相手に納得させたり、直接的な感動を伝えた

り^{注1}する一方、聞き手不目当ての「な」には、話し手の主張や判断などを自分で確認する気持ちを表したり、何かの実現を心から望む気持ちを表したり、直接的な感動を表したりする。また、中間型の「な」には、独り言をいうかのようだが、間接的に聞き手に自分の気持ち

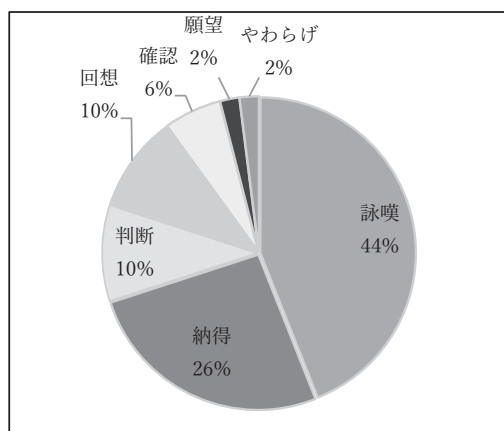


図1「なッテ」形式の使用率

ちを伝える用法である。今回は、データを分析した結果、「なッテ」形式として現れる用法を観察し、伊豆原（1996）と森山（1998）が指摘した「なッテ」の用法を参考に、詠嘆、回想、やわらげ、確認、納得、判断と願望という用法にまとめて分類した。出現データを詳しく見ていくと、詠嘆は22（44%）、納得は13（26%）、判断と回想はそれぞれ5（10%）、確認は3（6%）、少数の願望とやわらげは、それぞれ1（2%）となった。

4.1.1.1. 詠嘆

話し手は、自分の感情や気持ちを表現する際、終助詞「なッテ」を文末に置くことによって、聞き手に「詠嘆」を示す。話し手の感情には、プラスな気持ちだけでなく、マイナスな気持ちを伝えるときにも用いられる。次の例を見てみよう。

(1) 槇原「びっくりだ(U よ)。」

槇原「あ|ま)でもほんとに(0.733)そう思うと(0.721)すごいなッて。」

妹 「うーん。ねー」

(CEJC, T020_010)

(2) 雪江「男の子がわたしのこと好きだったから:(0.575)(U なんか)ちょっと(0.673)(W ムアシ|わたし)は 全然あれだったけど。」

俊夫「へー。」

雪江「面倒くさいなッて。」

(CEJC, K013_004)

上記の例（1）では、話し手の槇原が聞き手に向かい、ある有名人が見事に演じた役に対して、感動をする様子を示す際、「すごいなッて」というプラスのニュアンスを表した。そして、例（2）の雪江は、「ッて」を使うことによって、好意のない男性に対する面倒くさい気持ちを表した。

4.1.1.2. 納得

以下の事例は、話し手自身が納得したことを相手に伝えるとき、「なッテ」が使われる。次の例（3）では、話し手の徹が「ッて」を用いて、「褒める行為は、目上の人が目下の人にたてしてすること」だと改めて気づき、納得したことを表している。そして、例（4）の紗矢は、「ッて」を用いて、韓国に行ってきた友人が、韓国の習慣に従って前髪を切ったことに対して、「郷に従った」ということに気が付いている。

- (3) 徹「褒めるって確かに ああ 言われてみれば上からだなって。」

(CEJC, T010_013)

- (4) 紗矢「(R 紗矢)(.)なんか (Y ケッコ|結構)(Y ゴー|郷)に従う:力があるみたいで
韓国行ったらね:(0.192)前髪がなくなった(L からもう)(0.155)(I あ)(Y ゴー
|郷)に従ったんだな:って。」

(CEJC, T004_006)

4.1.1.3. 判断

次の事例は、話し手が思う評価・判断を相手に丁寧に伝えるときに使われる。以下の例(5)では、話し手の槇原は、「って」の使用によって、進路の重要性を相手に伝える際、「お金かけるほうがいいんだろうな」と評価を表した。さらに、例(6)の一色は、場所と範囲を観察した結果、カメラ一台でも十分だと判断を伝えている。

- (5) 槇原「(U だから) 僕 進路のほうにお金かけるほうがいいんだろうなって。」

(CEJC, T021_021)

- (6) 一色「で そこに二台使ってもいいかもなって感じ。」

一色「一台でもいいかもな:って。」

(CEJC, W007_002)

4.1.1.4. 回想

話し手は、自分が過去に経験した出来事について、もう一度思い出し、相手に伝える場合、「なッテ」が用いられる。以下の事例(7)では、いつも昔の写真を見るたびに、一番後ろにいる人のことをなかなか思い出せず、「顔を見たことないなって」と回想を表している。

- (7) しげ子「えー (R 肇)の後ろにいるのは誰だっけな:(1.187)顔を見たことないな:って。」

(CEJC, C002_013b)

4.1.1.5. 確認

話し手は、自分が理解した物事をわかった瞬間、事実や証拠を提示しながら、聞き手に客観的に伝える場合、「なッテ」を用いる。次の例(8)では、若菜は友人が大好きな回転寿司に行っている写真をSNSで見て、頻繁に行っていることを、聞き手に伝える際、「また行ってんだなって」と自己確認を表している

- (8) 若菜「ストーリー(W レー|で)(.)(I あ) また行ってんだな(U って)。」

(CEJC, W006_001)

4.1.1.6. 願望

話し手は、自分の期待や希望を表し、聞き手に間接的に伝えたいとき、「なッテ」も使われる。次の例(9)では、詩織がSNSで放送されるキャラクターの番組を検索してもらいたいと聞き手に頼むとき、「声が出る方がいいなって」という願望を示している。

- (9) 詩織「なんかのんちゃんのさ 連続のさ:(0.271)声がなんか出ればいいな(0.227)って。

(CEJC, K003_002a)

4.1.1.7. やわらげ

話し手が、聞き手にやわらかく指示するときに使われる用法のことである。以下の例(10)

では、昌美は新しい帽子をかぶろうとしている娘に対して、「鏡の前で帽子をかぶる姿を見せてあげなさい」とやわらかく指示した際、「見せてあげなって」とやわらかく指示している。

(10) 昌美「鏡 (L 見してあげなって) 。」

(CEJC, K005_012)

4.1.2. 終助詞「かなッテ」の形式

思考引用「かなッテ」の出現状況については、総数 45 発話がある。出現した「かなッテ」の事例も、「かなと思う」の用法を反映しているため、「かなと思う」の研究に関する考察を見ていきたい。石井 (2018:94) が指摘した「かなと思う」の分類に基づき、「提案、依頼、意志、願望、疑い・疑問、納得、判断」という意味用法が分類されたが、本稿では、コーパス・データで「依頼」の用法が出現しなかったため、事例が示す 6 つの用法の「提案、意志、願望、疑い・疑問、納得、判断」で分類した。また、6 つの用法に当てはまらないデータもあるため、新しく見られた用法は「推測」として追加することにした。全ての事例のうち、

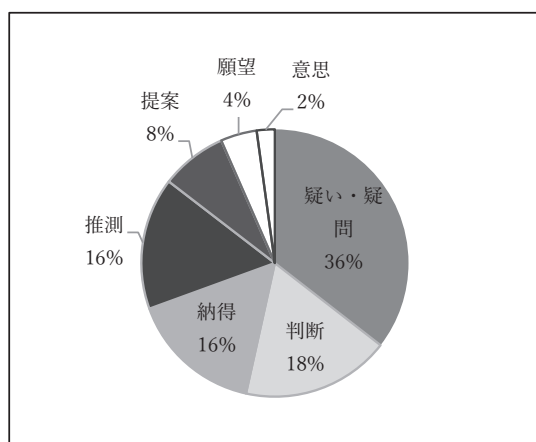


図 2 「かなッテ」形式の使用率

疑い・疑問を表すデータは、16 (36%)、判断を表すデータは 8 (18%)、納得と推測を表すデータはそれぞれ 7 (16%)、提案を表すデータは 4 (8%) である。そして、願望を表すデータは、2 (4%)、意志を表すデータは 1 (2%) である。また、結果として、疑い・疑問の用法が最も多く、続いて、判断、納得と推測の「かなッテ」がその次に多く用いられたと分かった。

4.1.2.1. 疑い・疑問

話し手は、ある事柄について、気になることを問いかけるときに「かなッテ」が用いられる。話し手の疑いや疑問を表す際のほとんどが、疑問詞の「どう；どの；どれ」などが文頭に現れることが多い。例 (11) の山崎と例 (12) の准が両方とも疑問を表す際、疑問詞の「どう」や「どのぐらい」を先行し、最後に「かなッテ」を用いることによって、話し手の疑問を表していると分かった。

(11) 山崎「いつも疑問なのは女性の妊娠中どうすんのかなッて。」 (CEJC, T018_004)

(12) 准「その上で (その) 野球ってラフプレーとかについてどのぐらいなのかなッて。」

(CEJC, T010_003)

4.1.2.2. 判断

話し手が思う事実に基づく個人の考えや意見を相手にやんわりと伝えるときに使われる。以下の例 (13) では、郷美は「かなッテ」を用いることにより、同僚に個人的な考えを間接

に伝える際、「企業を通さないほうが安い」という判断を示している。また、例(14)では、晴哉が算数の学習順番についてお父さんに伝える際、改めて検討し、正しい順番を理解した上で、その判断を示している。

(13)郷美「だ(W カ)から そう考えると:(1.325)まあ なんか: 日本の(0.872)その(0.337)
(W ヒギョー|企業)を通さないほうが安いかなって。」 (CEJC, T019_011b)

(14)晴哉「三角形終わったからさ: 三角柱とか(0.214)か:(0.113)三角柱とか終わったから
三角柱じゃねえのかな:って。」 (CEJC, T019_016)

4.1.2.3. 納得

他人の考えや行動あるいは、物事についてもっともだというように理解し、認めるときに使われる。事例(15)では、根本がギターの適切な弾き方に対して説明する際、「こんな感じかなって」と納得したことを表している。そして、例(16)の川原は、爪を磨くときつやがでるまでがいいと納得したことを示している。

(15)根本「ああ これ (D コ)こんな感じかなって。」 (CEJC, T018_017)

(16)川原「自分:のやつやるんだったら まあいい%かな:って。」 (CEJC, K011_005)

4.1.2.4. 推測

ある事柄をもとにして、相手の心中や状況について推しはかって想像することを伝えるときに使われる。例(17)では、卓は「かなッテ」を用いることで、年寄りの父の寿命への心配で、寒くなると亡くなるのではないかと推測を示している。そして、例(18)では、日野は、「かなッテ」の使用により、長く会っていないお父さんのことを思い出すと、もしかしたら会いたがっているのではないかと推測を表している。

(17)卓「まあ だってうちの(D チ) 親父自体がもう(0.883)毎年冬:(0.92)(D ス)(0.231)
寒さ厳しくなるとそろそろかな:って。」 (CEJC, S002_004)

(18)日野「父ちゃん会いたいかな:って。」 (CEJC, K011_015)

4.1.2.5. 提案

話し手は、自分の推奨を聞き手に丁寧に進めるときに使われる。例(19)の栗木はお客さんである聞き手に髪の毛より、頭皮のケアの方も大切なので、できればケアしてほしいとやわらかく提案するとき、「～ていただけるといい」という丁寧な依頼表現の後に「かなッテ」を用いることで、提案を表している。そして、例(20)では、田崎は、台詞の覚え方について友人である相手に提案する際、よりカジュアルな依頼表現の「～たらいい」の直後に「かなッテ」を用いて、提案をしている。

(19)栗木「で 頭皮:(.)の(.)分け目が一番たぶん浴び:てると思うので(0.788)本来ならば
そこも(0.262)(F あの:)(0.141)ケアをしていただけると(0.48)いいのかな:
って。」 (CEJC, K008_04b)

(20)田崎「一個一個の台詞が流れないで: ちゃんとなんか 頭に残るようにしたらいいんじや
ないかな: って。」 (CEJC, W002_001)

4.1.2.6. 願望

「かなッテ」を用いることによって、話し手が自分の願望をやんわりと表すことができる。例 (21) では、高畑は、「かなッテ」を用いて、聞き手に名詞作成がどうしても必要になると伝えるとき、「お客さんに配れるもののほうがいい」と願望を間接的に表している。

(21)高畑「(D ン)でもほら (F あの:) ね 皆さんに配れるものだったらいいかな(U っテ)。」

(CEJC, T015_010)

4.1.2.7. 意志

話し手が自分のやりたいことや計画について伝えるときに、「かなッテ」も使われる。例 (22) では、つや子は近いうちに伊勢原に行くつもりだということを聞き手に伝える際、「かなッテ」を使うことによって、意志を示している。

(22)つや子「だから 入り:十八で十八日曜日だから 十八伊勢原:(1.925)行こうかな:っテ」

(CEJC, K009_16a)

4.1.1 節では、「なッテ」形式の意味用法をみた。「なッテ」形式の特徴として、話し手の感情や態度をより主観的かつ間接的に表現するいくつかの主要な機能を持っていることが確認された。4.1.2 節では「かなッテ」形式の用法分類を見ていくと、会話の文脈においてさまざまな意味で使用され、話し手の感情や考えを間接的に反映していることが示された。

「なッテ」と同様で、ある程度「かなッテ」が用いられる際、話し手は自分の非断定的な態度を表現する役割を持っており、不確かさや考慮、また個人的な判断を間接的に伝えることができることがわかる。

4.2. 思考引用「って」の音調の特徴について

まず、3.3 で述べた通り、今回の調査では、思考引用「って」の 101 発話の音声データを Praat で測定し、ピッチが分析可能である 56 データを対象にした。抽出したデータから、思考引用「って」の出現状況については、ピッチが分析可能である総数 56 発話のうち、まず

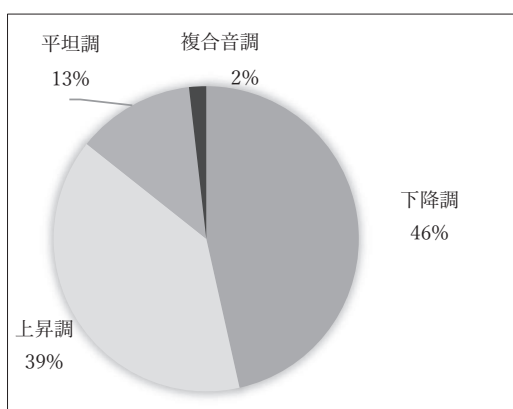


図 3 音調による「って」の出現率

下降調「って」を示すデータは、26 (46%)、上昇調「って」を示すデータは 22 (39%)、平坦調の「って」を示すデータは、7 (13%)、最後に、複合音調の「って」を示すデータは、1 (2%) である。この複合音調の「って」は、疑い用法をもち、「かな」の音調が下がった直後に、「って」の部分だけがまた上がってしまう音調である。なお、結果として、平坦調があまり現れず、下降調と上昇調が主に出現した。続いて、思考引用「って」が持つ

音調について、より具体的な特徴を記述する。深尾（2019）が指摘した「って」の促音の部分の時間、前接する語句と「て」との間のポーズの持続時間が意味の違いを決定する大きな要因の1つとなっていることに注目する。

以下4.2.1から4.2.4までは、下降調、上昇調、平坦調、と「複合音調」の「って」の順番に分け、前接する終助詞「な」と「かな」から「って」までのポーズによって、「って」の振る舞いや機能を観察していく。

4.2.1. 下降調の「って」

4.2で説明した通り、CEJCで抽出した思考引用「って」の音調は、下降調が最も多く見られた。26の音声データを分析した結果、ポーズ（引用の終了部分から「って」までの間）の長さによって、話し手の意図がはっきり分かった。ポーズが長い場合は、話し手の「疑問」「詠嘆」「意志」を表す一方で、ポーズが短い場合は、「納得」「判断」「推測」を表す傾向が見られる。順番に図4疑問、図5詠嘆、図6意志は、ポーズの長い「って」、図7推測、図8納得、図9判断は、ポーズの短い「って」である。

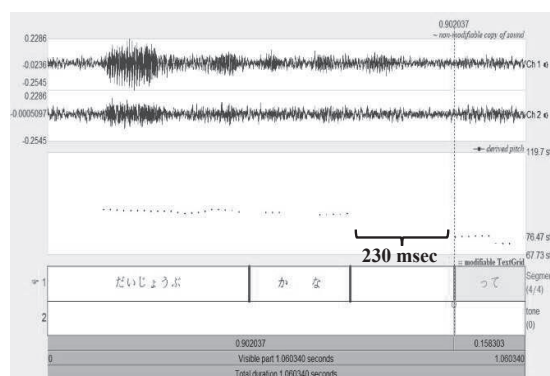


図4 疑問 (CEJC, T009_003)

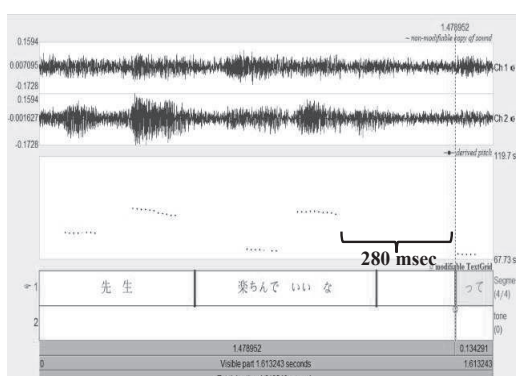


図5 詠嘆 (CEJC, C002_015)

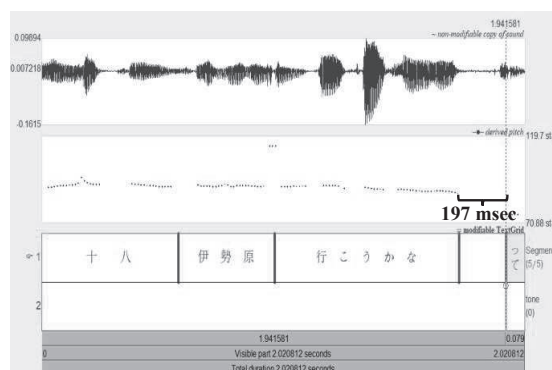


図6 意志 (CEJC, K009_016b)

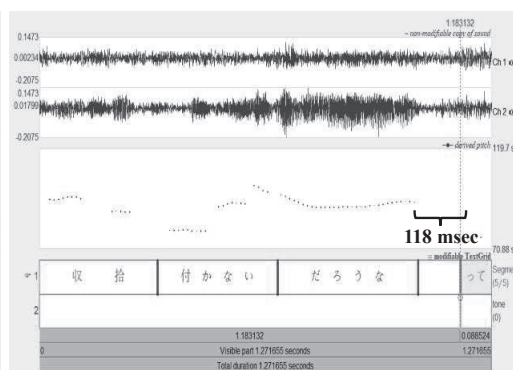


図7 推測 (CEJC, S002_015)

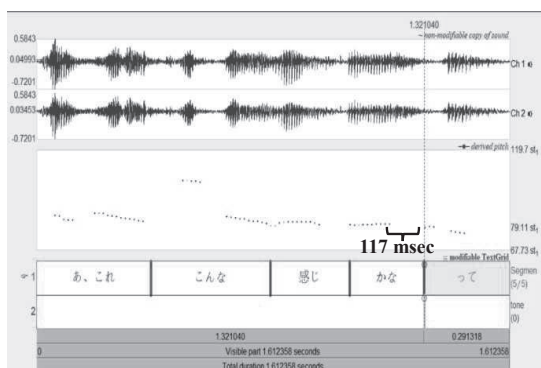


図 8 納得 (CEJC, T010_013)

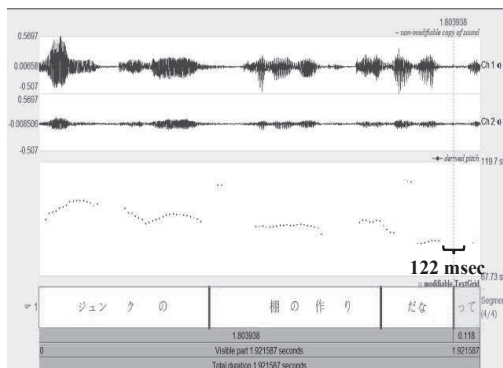


図 9 判断 (CEJC, S002_005)

4.2.2. 上昇調の「って」

CEJC で観察した思考引用「って」の音調は、二番目に多くみられるのは、上昇調である。22 の音声データを分析した結果、引用部分から「って」までの間、ポーズの長さによって、話し手の意図について、上昇調「って」の場合、ポーズが長い場合は、「回想」「詠嘆」「提案」「願望」を表し、ポーズが短い場合は、「疑問」「納得」「判断」を表すことが分かった。以下の例文を順番に図 10 回想、図 11 詠嘆、図 12 提案、図 13 願望は、ポーズの長い「って」を示し、図 14 疑問、図 15 納得は、図 16 判断は、ポーズの短い「って」を示す。

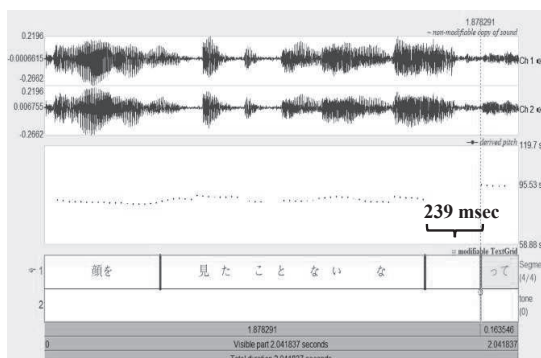


図 10 回想 (CEJC, C002_013b)

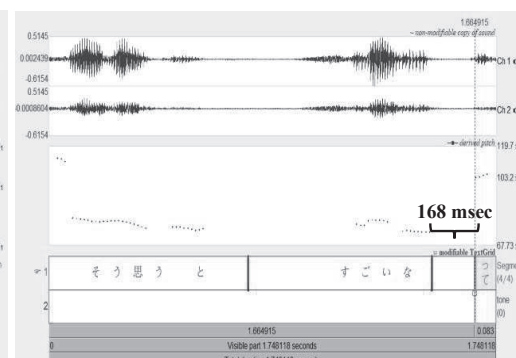


図 11 詠嘆 (CEJC, T020_010c)

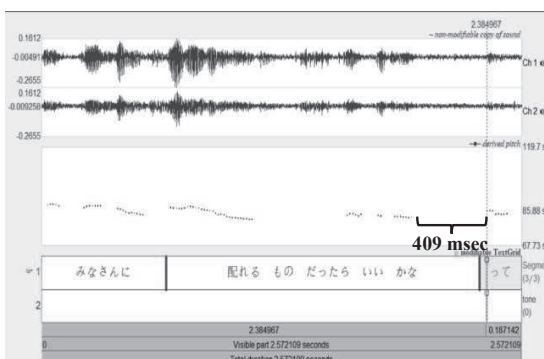


図 12 提案 (CEJC, T015_010)

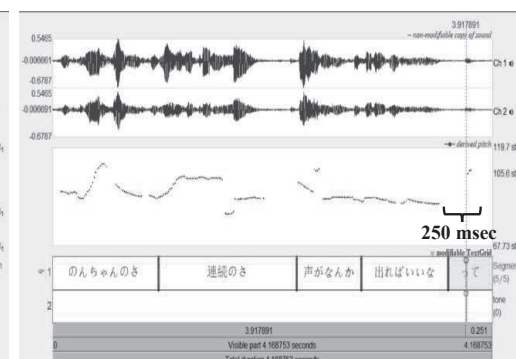


図 13 願望 (CEJC, C002_013b)

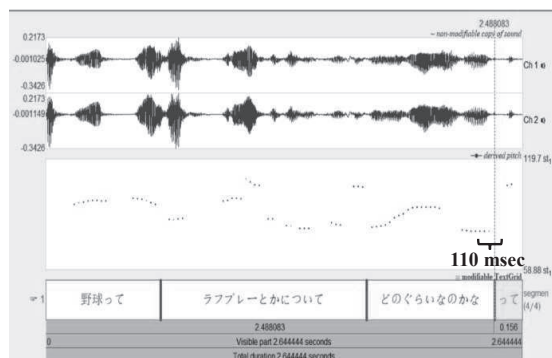


図 14 疑問 (CEJC, T010_003)

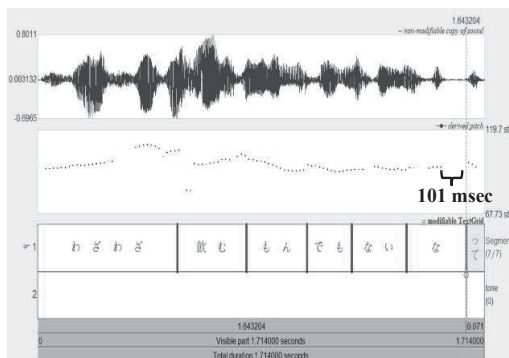


図 15 納得 (CEJC, K010_001)

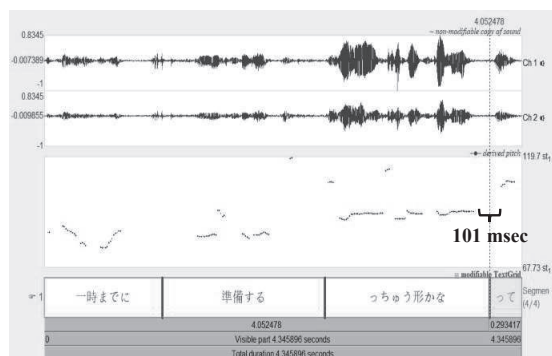


図 16 判断 (CEJC, T015_004)

4.2.3. 平坦調の「って」

今回の調査で、抽出できた平坦調の「って」は、全体で7の音声データを分析した結果、ポーズが長い場合は、話し手の「詠嘆」と「疑問」を表すことに対し、ポーズが短い場合はより多く現れ、「詠嘆」「納得」と「判断」を表すことが分かった。以下では、順番に図17 詠嘆と図18 疑問は、ポーズの長い「って」を示し、図19 詠嘆、図20 納得、図21 判断は、ポーズの短い「って」を示す。

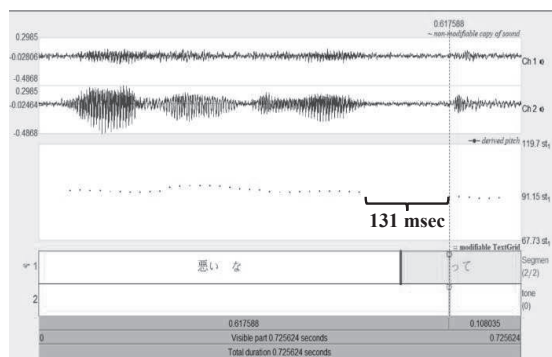


図 17 詠嘆 (CEJC, C002_015)

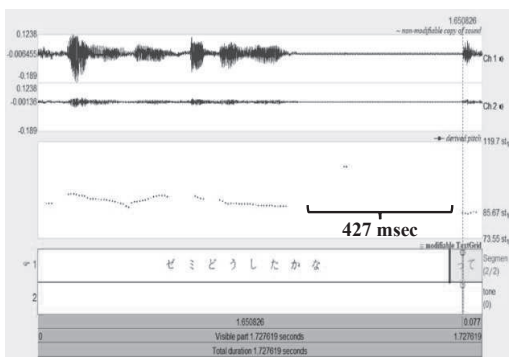


図 18 疑問 (CEJC, C002_016)

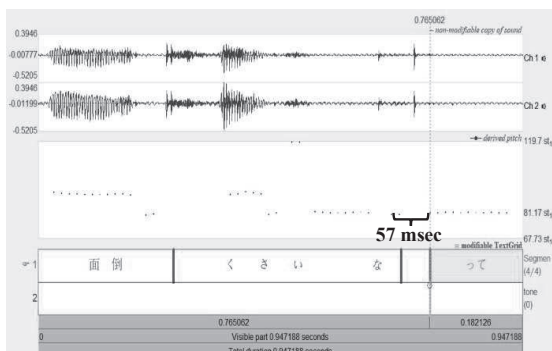


図 19 詠嘆 (CEJC, K013_004)

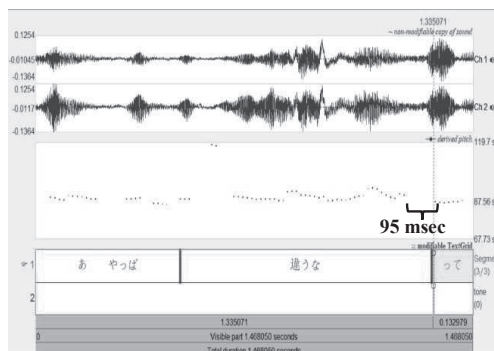


図 20 納得 (CEJC, T004_011)

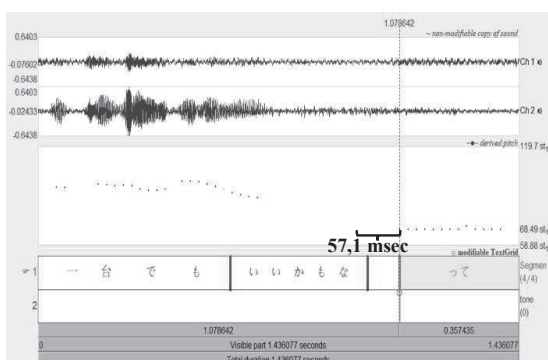


図 21 判断 (CEJC, W007_002)

4.2.4. 複合音調の「って」

今回のデータでは、複合音調の「って」は、全体で1例しか現れず、引用部分の文末が下がり、その後にくる「って」が上がったということを確認した。引用部分の後のポーズが短く、基本的に、話し手の「疑問」を表すが、その直後に「って」の部分だけが上昇することにより、聞き手に「疑い」をより強く伝えたいようである。

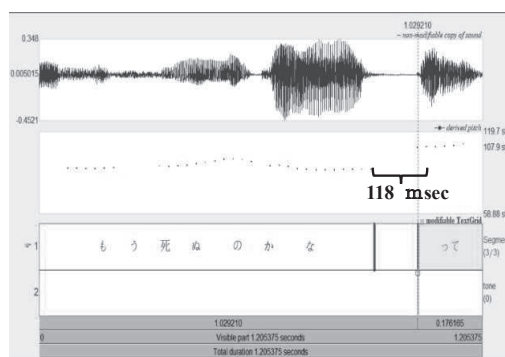


図 22 疑問 (CEJC, K010_001)

4.3. 思考引用「って」の用法とその音調の関係について

上記の思考引用「って」が持つ音調とそれぞれの用法は、どのような関係で結びついているのかについて、ポーズと発話の文脈を詳しく分析した結果、次の関係が見られた（表3参照）。まずは、下降調及び平坦調の疑問と上昇調の疑問について、比較していきたい。下降調と平坦調の長いポーズの疑問の場合、ある人物や物事について、話し手自身の心配や不安

がより強い感情を示す（図4と図18参照）。図4「大丈夫かなって」は、友人の病気を心配しているときの発話であり、図18「ゼミどうしたかなって」は、大学のゼミのことについて、甥のことを不安に思っている様子発話のである。それに対し、上昇調の短いポーズの疑問は、話し手の立場から気になっていることを伝えているように考えられる（図14参照）。図14「野球ってラフプレーとかについてどのぐらいなのかなって」は、野球の試合中に、人をけがさせるとき、どこまでがラフプレーになるのかについて、話者が気になっていることを伝えている。次に、詠嘆について比較すると、下降調の詠嘆と上昇調の詠嘆に関してみていく。下降調の詠嘆の場合は、聞き手の発話に対する同情を示す際、自分も同じような気持ちを持っているということを意味するのに対し、上昇調の詠嘆の場合は、話し手自身の感情を強く示している傾向が見られる（図5と図11参照）。図5「先生楽ちんでいいなって」は、修学旅行の引率のときの先生である友人の話聞き、先生の楽な役割をととても羨ましがっていることを伝えている。一方、図11「そう思うとすごいなって」は、友人の奥さんが内科の先生であることに感心している。また、平坦調のポーズが長い詠嘆の場合は、話し手が、ある人物・状況に対する残念な気持ちを表している（図17参照）。図17「悪いなって」は、ママたちが叩かれることに対する罪悪感を示している。一方、ポーズが短い平坦調の詠嘆の場合は、話し手がある物事に対する軽い気持ちを表していると考えられる（図19参照）。図19「面倒くさいなって」は、好意のない男性に対する面倒くさい気持ちを表している。

このように、思考引用「って」の用法とそれぞれの音調について、観察したところ、ポーズによって、話し手の発話意図がより深く読み取れるようになった。

表3 思考引用「って」のポーズとそれらの用法との関係性

ピッチ/ポーズ	長い	短い
下降調	疑問；詠嘆；意志	納得；判断；推測
上昇調	詠嘆；願望；提案	回想；疑問；納得；判断
平坦調	詠嘆；疑問	詠嘆；納得；判断

5. おわりに

コーパス分析の結果、自然な会話において思考引用「って」の用法は非常に多様であることが確認された。各「って」の用法および音調に関して、引用部の最後と「って」の間におけるポーズの長さが話し手の感情を反映し、その感情の強さが示されていることも分かった。本研究は、日本語における思考引用「って」の使用において、音調が大きな役割を果たしていることを示す文末表現の研究への重要な貢献であると考えられる。

思考引用「って」については、測定できなかったデータの中で、聴覚的印象として下降調の「って」が多数を占めていた。これらの「って」が、話し手の感情を表す発話に多く見られたことについては、さらなる詳細な分析が必要である。さらに、モダリティ「だろう＋って」の形式に関しては、今後の研究課題としたい。

注

1. 聞き手めあて「な」と聞き手不めあて「な」の用法の中で、直接的な感動を表すことが書かれているが、聞き手めあて「な」が示している事例は、直接的な感動を伝えていると解釈できるため、その感動の事例をあげている。

参考文献

- 石井郁江 (2018)「日本語教科書で観察される「かなと思う」」『言語・文学研究論集』18,pp.87-101
- 伊豆原英子(1996)「終助詞「な (なあ)」の一考察—聞き手に何を伝えているのか—」『名古屋大学日本語・日本文化論集』4,pp.65-82,名古屋大学留学生センター
- 岩男考哲 (2003)「引用文の性質から見た発話「～ッテ。」について」『日本語文法』3-2,日本語文法学会,pp.146-162
- 許夏玲 (1999)「文末の「って」の意味的と談話機能」『日本語教育』101,日本語教育学会,pp.81-90
- 三枝令子(1997)「「って」の体系」『言語文化』一橋大学語学研究室編Vol.34,pp.21-30
- 平山紫帆 (2015)「自然会話における終助詞「かな」の用法」『日本語教育実践研究』2号,pp.68-79
- 深尾まどか (2018)「「って」で終わる文について」『東吳日語教育學 報』51、台北、東吳大學日本語文學系,pp.57-86
- 深尾まどか (2019)「文末「って」のイントネーション—人から聞いた話を伝える「って」と話し手の主張を表現する(強調「って」を比較して)—」『台湾日語文學報』46,pp.117-140
- 守時なぎさ (1994)「話し言葉における文末表現「ッテ」について」『筑波応用言語学研』1,pp.87-99
- 森山新 (1998)「終助詞「な」の意味用法について」『日本学報』41,pp.121-142
- 森山卓郎(1992)「文末思考動詞「思う」をめぐる一文の意味としての主観性・客観性—」『日本語学』,明治書店,pp.11-9

用例出典

国立国語研究所『日本語日常会話コーパス (CEJC)』, 2022 年度版